

公安委員会定例会議(第13回)の開催状況

第1 日 時 令和元年5月29日(水)

午後1時30分 ～ 午後4時40分

第2 出席者 渡部委員長、増田委員、曾我部委員

本部長、総務室長、警務部長、首席監察官

生活安全部長、刑事部長、交通部長、警備部長

警察学校長、情報通信部長、総務課長

第3 議事の概要

1 委員長説示

また、子ども達が犠牲になる痛ましい事件が起きてしまいました。今の子ども達には危険がいっぱいで、安心して学校にも行かせることができない状況になっているのではないかと本当に心配です。

前にも自尊感情を持たない大人のお話したことがあります。自分は価値あるものだと感じることや、自分を大切に思える気持ちを育てるための社会全体の取組はとても大切です。犯人が今回のような恐ろしい犯行に及んだ背景には、自尊感情が育まらない環境があったのではないのでしょうか。

事件の背景を追求することなく、犯行の動機や経緯が明らかにされないまま事件が解決とされるのなら、同じような事件が繰り返されるのではないかと不安になってしまいます。

是非、県警察においては、関係機関と連携した取組を進めていただき、社会全体で子ども達が安全で安心できる健全な環境の実現に向けて取り組んでいただきたいと思います。

2 決裁事項

(1) 公安委員会定例会議の会議録について

総務室から、令和元年第12回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

(2) 公安委員会表彰について

監察官室から、警察記念日表彰における公安委員会表彰の選考及び決定について伺いがあり了承した。

(3) 警察職員の援助要求について

警備部から、警察職員の援助要求及び援助要求に対する回答について伺いがあり了承した。

(4) 運転免許の行政処分に係る意見の聴取・聴聞について

交通部から、運転免許の行政処分に係る意見の聴取及び聴聞結果について報告があり、審議の結果29件の行政処分の決定について伺いがあり了承した。

3 報告事項

(1) 社会の変化に適応する警察運営に向けた取組について

警務部長から、今後の日本社会の変化に適応する警察運営に向けた取組について報告があった。

(2) 在留外国人等安全対策委員会の設置について

警務部長から、在留外国人等安全対策委員会の設置について報告があった。

委員から

◇ 様々な国からの人に対応するために、それぞれの外国語を習得した人材の確保にも備える必要があるのではないか。

との発言があった。

(3) 公務災害認定状況について

警務部長から、公務災害認定状況等について報告があった。

(4) 随時監察の受監結果について

首席監察官から、平成30年度第2、第3、第4四半期における局長随時監察の受監結果について報告があった。

(5) 暴力団の現状について

刑事部長から、暴力団の全国及び県内情勢について報告があった。

(6) 補助金適正化法違反事件の検挙について

生活安全部から、企業主導型保育事業に係る補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律違反の検挙について報告があった。

(7) 禁止命令の実施について

生活安全部から、ストーカー行為等の規制等に関する法律に基づく禁止命令及び実施状況について報告があった。

(8) 春の全国交通安全運動の実施結果について

交通部から、春の全国交通安全運動の実施結果について報告があった。

(9) 道路交通法違反事件の検挙について

交通部から、二輪車集団暴走に係る道路交通法違反の検挙について報告があった。

4 その他

委員から、「昨年、西日本豪雨災害では、地元の協力を得て漁船等で警備部隊員の輸送を行うことで、発災直後から即座に活動することが可能となった。1940年、英国首相チャーチルは、差し迫った危機に同様のアイデアで対処した。イギリス等の兵士33万人以上をフランスのダンケルクからイギリスに撤退させた際、チャーチルは、民間の漁船やヨットなどの小型船の所有者に呼びかけ、兵士を沖合の艦船にピストン輸送させた。後にチャーチルは、救出された兵士の多くはイギリス空軍の攻撃から免れて自分達に襲い掛かるドイツ軍の飛行機は見えたと、これを阻止したイギリス空軍の活躍を目にすることはなかっただろうと作戦を空から援護した空軍の功績を称えたが、陸上であってドイツ軍の進攻を食い止めたイギリス、フランスの兵士たちの奮闘が撤退の成功に大きく貢献したことも見逃してはならない。自分に全てが見えている訳ではないということだ。警察活動もお互い他の部署の活動が見えていなくても、1つの目標に向けてそれぞれがそれぞれの立場で力を合わせることによって初めて、十分な成果を得ることができる。」との発言があった。

以上